

平成23年度活動報告書

会 員 名	山形県酒田市		
活 動 名	酒田湊北前船寄港記念事業		
主 催 者	酒田湊北前船寄港記念事業実行委員会		
報 告 者	所 属	酒田市商工観光部商工港湾課	TEL 0234-26-5758(直通)
	氏 名	主事 鈴木 輝正	E-mail terumasa-suzuki@city.sakata.lg.jp
協議会以外の 共催・後援等	山形県港湾協会 酒田港湾振興会 「海の日」記念事業実行委員会		
実 施 時 期	平成23年8月20～23日		
実 施 規 模	延べ37,216人（「みちのく丸」の乗船見学者数4,261人）		
実施事業費	1,812,100円		
実 施 概 要	活 動 全 般		
	青森市のみちのく北方漁船博物館財団所有の北前型弁財船「みちのく丸」の酒田港寄港に 合わせて、寄港を盛り上げるため行政機関や民間団体が構成する酒田湊北前船寄港記念事 業実行委員会を立ち上げ、歓迎イベントを展開した <イベント内容> ○歓迎セレモニー：山形県副知事等あいさつ、テープカット、船内見学 ○市場での歓迎市、福幸市(ふっこういち)の開催 山車の展示 ○北前船の特別展示(模型、関連資料の展示) 復興フェスティバル「SAKATA is wonderfu ○港湾業務艇・屋形船等による北前船洋上見学と港内見学会 ○離島定期船によるサンセットクルーズ ほか		
	他の会員の参考となる新しい試み		
実施にあたり苦労した点 (今後他の会員が実施す る上で注意する点)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、個々でのイベントの開催を行ない、連携や情報交換等を行なう機会が少なかった ことから、改めて実行委員会を立ち上げるにあたり、参加団体を募ることが難しかった。 ・予算措置のないところからの事業であったため、必要な予算を集めることが必要だったこと ・行政機関と民間団体との認識の違いと意思疎通の難しさ 		
参加者の反響 (参加者の声)	山形県とりわけ酒田の人にとって北前船(きたまえぶね)への思い入れは格別のものであり、 その北前船を間近に見ることができ、大変好評であった。残念だったこととして、港内で 展帆(てんぱん)できなかったことと、北前船に乗船(体験航海)できなかったこと		
活動に対するPR内容	県・市広報誌への掲載 ラジオでの紹介 山形新聞への記事掲載		
マスコミ等の反響	日本海沿岸の各新聞者が後援ということもあり、実行委員会の立ち上げの段階から、山形新聞 において記事として掲載。寄港後はその他のテレビ、新聞等に掲載		
実施状況写真	別紙のとおり		

平成23年8月20～23日北前船寄港歓迎事業
入り込み客数

単位:人

No.	イベント名	参加人数	備考
1	歓迎セレモニー	450	
2	みちのく丸船内見学会	4,261	
3	国土交通省港湾業務艇「みずほ」の港内見学	78	
4	屋形船「みずき」遊覧	43	
5	歓迎市(海鮮市場)	8,848	
6	歓迎市(みなと市場)	4,571	
7	福幸市 20・21日	4,000	
8	北前船特別展示(海洋センター) 20～23日	2,195	
9	「SAKATA is wonderful」	398	
10	サンセットクルーズ	104	
11	寄港記念シンポジウム、フォーラム	210	
12	みなとオアシスマつり	4,779	
13	その他一般来場者	7,279	
合計		37,216	

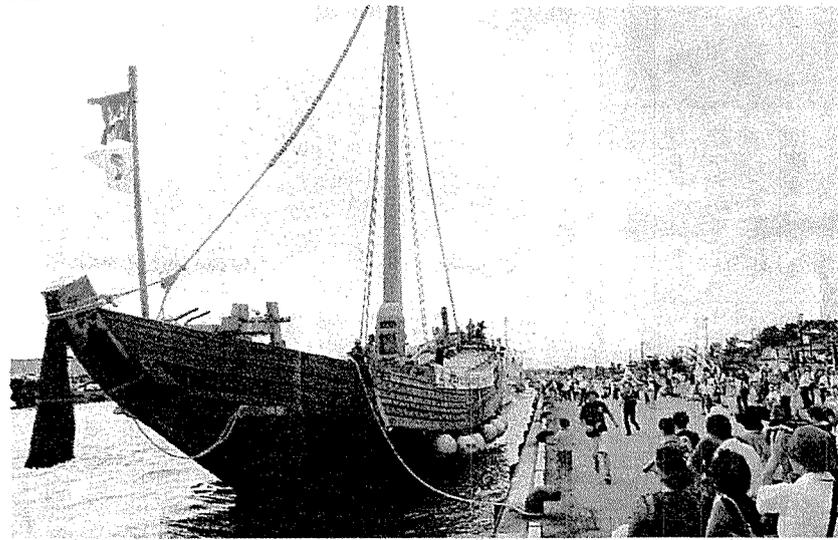
(※合計については、各イベントの延べ人数で集計しているため、重複については考慮されておりません)

酒田へようこそ — 一般公開

北前船 みちのく丸

日本海沿いの歴史

山形新聞社など日本海側の9新聞社とみちのく北方漁船博物館財団(青森市)が主催する「甕(よみがえ)れ海の道」北前船日本海文



大勢の市民に迎えられて着岸する復元北前船「みちのく丸」＝酒田市の酒田本港東埠頭

化交流事業(共催・北前船庄内、特別協賛・山形銀行、荘内銀行)で、10道県の14港を周航している復元北前船「みちのく丸」は19日夕、酒田市の酒田港に入港した。29面に関連記事

みちのく丸は、新潟市の新潟西港を19日午前6時に出港し、およそ10時間をかけて13番目の寄港地となる酒田に到着。全長32メートル、帆

柱までの高さ28メートルという堂々たる姿が港内に現れると、出迎えた約300人の地元関係者からは「大きいね」「立派な船だ」と声が上がった。

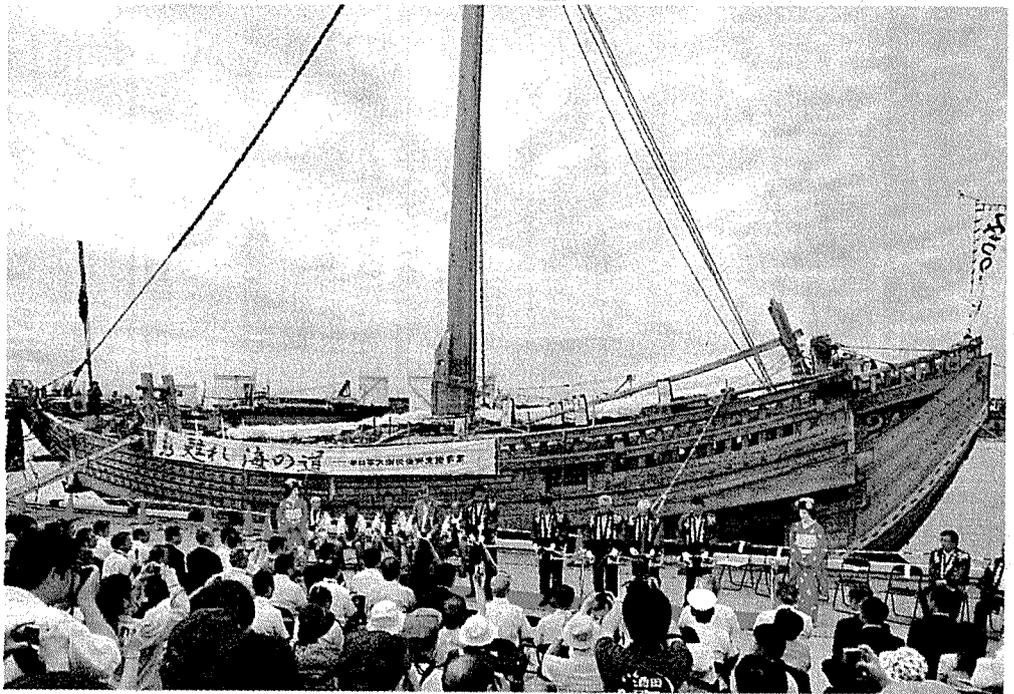
酒田港は1672(寛文12)年に河村瑞賢が開いた西回り航路の起点。北前船で京都、大坂などの交易が盛んになり、劇的な発展を遂げた。酒田市千石町2丁目、会社員佐藤俊宏さん

(53)は「昔ながらの造船技術で造られた芸術品のよつな船体に驚いた。帆を揚げた姿を見たい」と語り、往時をしのばせる北前船の雄姿に目を細めていた。酒田

港では、きょう20日に停泊場所の東埠頭(ふとう)で歓迎式を行い、一般公開がスタート。21日には酒田沖で展帆航行を予定している。24日朝に最終寄港地の秋田港に向け酒田を出港する。

酒田港で一般公開

歴史に触れ 感激



復元北前船「みちのく丸」の寄港を祝い、盛大に歓迎式が行われた
—酒田港本港

「甕(よみがえ)れ海の
道」北前船日本海文化交流
事業」で酒田港に寄港した
復元北前船「みちのく丸」
の歓迎式が20日、酒田港本
港で行われ、一般公開が始
まった。停泊している東埠
頭(ふとつ)は、日本海で

26面に関連記事

午前9時半すぎ、みちのく丸は地元の小型船舶15隻と共に入港し、太鼓道場「風の会」の勇壮な太鼓や酒田きやり保存会の「木遣(や)り歌」に迎えられ、ゆっくりと着岸した。

歓迎式で、主催者を代表し黒沢洋介山形新聞社長が「昔を懐かしむだけでなく、新しい日本海時代を築き上げよう」とあいさつ。共催の北前船庄内の新田嘉一代表取締役と、酒田市の阿部寿一市長のあいさつに続き、高橋節副知事らが歓迎の言葉を述べた。みちのく丸の木村透船長は「この船は見てころがいつばい。多くの人に見てほしい」と語り、黒沢社長に「船鑑札」を手渡した。関係者によるテープカットに続き、酒田舞娘2人が、寄港地を代表するコマとして県産米新品種「つや姫」の米俵を船に積み込んだ。

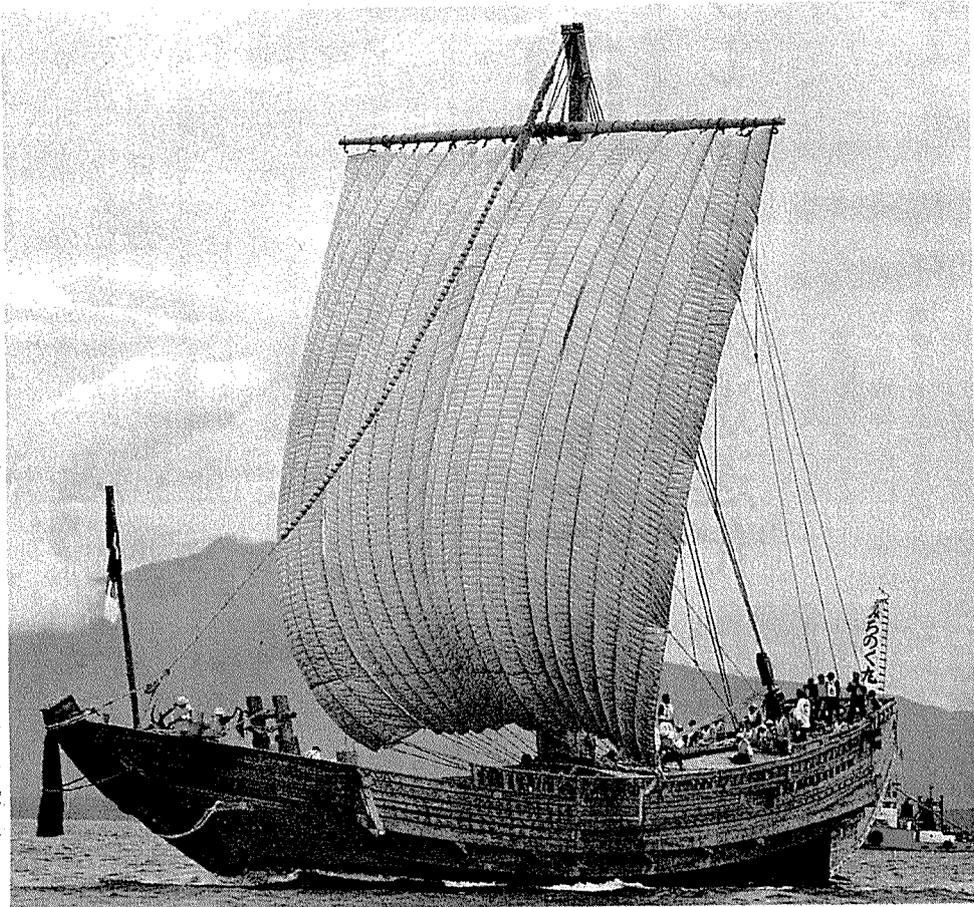
一般公開は埠頭に長蛇の列ができる人気ぶり。記念撮影を楽しむ人の姿が多く見られた。家族でフランスから実家の酒田に帰省していた佐藤美樹さん(45)は

「昔の技術の高さを感じた」と驚きの様子。東京都小金井市、大学生山口結香さん(21)は「酒田を築きさせてくれた北前船を見られて感激」と笑顔だった。

みちのく丸は、山形新聞など日本海側の9新聞社とみちのく北方漁船博物館財団(青森市)の主催(共催・北前船庄内、特別協賛・山形銀行、荘内銀行)で、ゆかりの10道県14港を巡航。きょう21日は酒田沖で、帆を張って走行する展帆(てんぱん)航行を予定している。

ホームページに動画

北前船
みちのく丸
日本海沿岸の紙事業
2011.8.22 (水)



大きく張った帆に潮風を受け鳥海山を眺めながら航行する復元北前船「みちのく丸」
酒田沖

潮風受け悠々 酒田沖で展帆航行

北前船日本海文化交流事業 走る展帆(てんぱん)航行を業で酒田港に寄港している復元北前船「みちのく丸」が21日、酒田沖で帆を張って

た北前船が日本海を帆走。悠々と自走する雄姿を披露した。 28面に關連記事

前夜からの雨も上がり、曇り空ながら、風速4級、波の高さ0.5~1.1メートルと展帆航行にとって絶好の条件が整った。午前10時、えい航船に引かれて酒田港を出港し、一路外海へ。同10時45分すぎ、自走ポイントに到着した船上では、乗組員や地元のボランティアスタッフが慌ただしく動き回り、約15分かけ、高さ28メートルの帆柱に縦22枚、幅18メートルの帆を揚げた。

いよいよ航行開始。風をはらんだ帆を動力に、飛鳥を目印にして白波を立てながらとんとん西に進んだ。鳥海山をバックに大海原を走る北前船の姿を、防波堤の釣り人や遊覧船の乗客らも見守っていた。酒田市宮海の岸壁から航行の様子を見ていた鶴岡市の会社員佐藤毅さん(51)は「大きな帆に風を受けて海の上を進んでいく北前船の姿は勇壮。縁起の良い宝船のようにも

見えた」と話していた。みちのく丸は、山形新聞社など日本海側の9新聞社とみちのく北方漁船博物館・財団(青森市)の主権(共催)・北前船庄内、特別協賛・山形銀行(庄内銀行)で、ゆかりの10道県14港を巡航している。きょう22日と23日は、酒田港本港東埠頭(ふとう)で一般公開を行う。ホームページに動画



平日にもかかわらず大勢の見物客でにぎわう復元北前船「みちのく丸」の船上
—酒田市・酒田港本港東埠頭

先人の苦勞に思いはせ

酒田港 船内公開、順番待ちの長い列



北前船日本海文化交流事業で酒田港に寄港している復元北前船「みちのく丸」の船内公開が22日、停泊場所の本港東埠頭（ふとう）で行われた。平日にもかかわらず大勢の見物客が訪れ、江戸時代から明治にかけて日本海海運の主役を担った千石船の雄姿にじっくり見入っていた。

◇ 21日は帆を張って走る展覧（てんぱん）航行で沖に出たため、船内見学は公開初日の20日以来。乗船口には、午前10時の公開前から夕方まで順番待ちの人たちが長い列をつくった。上層の甲板部や中層の船室など

を公開。順路には帆の揚げ方や船体各部を解説した説明板が設置され、見学者は日本海の荒波を航海した先人の苦勞に思いをはせ、一つずつ確かめるように眺めていた。

家族3人で訪れた舟形町舟形、農業佐藤喜美子さん（67）は「細部まで復元した船に乗ることができて良かった。勉強になった」。酒田市の祖父母宅に来ている大阪府田尻町、田尻小6年出来恰真（でき・れいま）君（11）と同2年誠也君（7）の兄弟は「木造の船でたくさん荷物を積み、大坂と酒田を行き来していたことを知り驚いた」と話していた。

みちのく丸は、山形新聞社など日本海側の9新聞社とみちのく北方漁船博物館とみちのく北方漁船博物館・北前船庄内、特別協賛催・北前船庄内、特別協賛催・山形銀行、荘内銀行）で、ゆかりの10道真14港を巡っている。船内公開はきょう23日まで。24日午前8時から、次の寄港地・秋田港に向かつて出港する。

夢とロマン、ありがとう

酒田出港 市民ら別れ惜しむ

(山)20(11.8.2)

大勢の市民に見送られ、次の寄港地に向けて酒田港を出港するみちのく丸

24日午前8時すぎ、酒田市



いた」と感謝の言葉を述べ、木村船長は「北前船に対する酒田の人たちの高い関心を肌で感じた。皆さんの熱い思いを乗せ、最後まで気を引き締めて航海したい」と語った。

午前8時10分すぎ、乗船員5人が係留ロープを外すと、タグボートに引かれたみちのく丸はゆっくりと離岸。惜別のどらの音が鳴り響く中、市民らが甲板に向かって5色の紙テープを投げ込み「ありがとう」「また来てね」と声を掛けていた。

北前船日本海文化交流事業は、山形新聞社など日本海側の9新聞社とみちのく北方漁船博物館財団(青森市)が主催。北前船庄内

出を見送り、現代によみがえった千石船との別れを惜しんだ。

北前船 みちのく丸

日本海沿線の歴史を伝える

北前船日本海文化交流事業で酒田市の酒田港に寄港していた復元北前船「みちのく丸」は24日朝、最終寄港地となる秋田県の秋田港に向けて出港した。小雨の中、市民ら約100人が船

みちのく丸が停泊していた本港東埠頭(ふとつ)には、出港の1時間前から見送りの人たちが続々と集まり「航海の無事を祈る」の横断幕も掲げられた。酒田市の本間正巳副市長が船鑑札を木村透船長に返還し、次の寄港地に向けた阿部寿一市長のメッセージを託した。本間副市長は「大きな夢とロマンを与えていただ

行った。学や酒田沖での帆走などを

酒田湊北前船寄港記念事業 実施状況



市民に迎えられて接岸する「みちのく丸」



歓迎市、福幸市(ふっこういち)



歓迎セレモニ



船内公開